

キャリアカウンセラーによる
大学生のキャリア開発支援における考察
- 若者特有の悩み方に注目して -

立命館大学大学院
応用人間科学研究科
臨床心理学領域
西木 多賀子

本研究は、筆者が企業の採用担当者として就職活動中の学生や新入社員とかかわる中で感じてきた問題意識と、大学のキャリアカウンセラーとしてこれから働こうとする学生をにかかわる中で感じてきた問題意識の両方が背景にある。現在、働く若者の早期離職やメンタルヘルス悪化が指摘されているが、実際の現場でも、新入社員が職場に適應できずうつ状態となり長期休職や退職に至ってしまうケースを目の当たりにしてきた。一方で、大学では、大学入学当初から就職活動や働くことに対する不安を強く抱いている学生たちがおり、その不安感を抱えたまま就職活動にはいり、疲弊し、自信を無くしている姿を見てきた。若者の不安定さは少なくとも大学時代から始まっており、そのよう若者の悩み・葛藤の仕方には、就職活動を始めとする若者を取り巻く社会からの圧力が大きな影響を及ぼしている。

本研究では、先行研究をもとに若者を取り巻く社会状況の変化を踏まえながら、若者特有の悩み・葛藤の特徴を明らかにする。その上で、大学時代の経験と就職後の働き方との繋がりに着目しながら、悩み・葛藤に抵抗する力について考察し、若者が生き生きと働いていくために、特に大学時代にできる支援の手掛かりを得ることを目的とする。

研究方法は、入社10年以内の大卒女子若手就業者4名へのインタビュー調査にて行った。大学生活、就職活動、現在の仕事について半構造化面接でインタビューを行い、その結果を逐語録に起こした後、KJ法にて整理・分析を行った。また、テキストマイニング・アプローチを参考に、インタビューデータから悩み・葛藤が語られている部分を抽出し、悩み方の特徴とそれに抵抗する力としての「柔軟な専門性」との関係性をマトリックス図で示した。

分析結果から、大学入学当初から悩み・葛藤が始まっていること、就職活動時期には自分を追いつめていく「自分語り」の悩み・葛藤が多くなること、女子特有の悩みなどが明らかになった。また、それらに抵抗する力として、「一定の志向性をもつこと」や「自立的に行動すること」、「多重的な世界を持つこと」、「相対化する目を持つこと」、「学び方を学ぶこと」が得られた。

大学時代の特に就職活動の影響を受け、悩みや葛藤が自分の内面に向かい、自分を追いつめていく悩み方が、若者の自己肯定感の低下やメンタルヘルス不調を引き起こしている原因の1つだと考えられる。＜内＞に向かう矛先を＜外＞に向け、自分を環境との関係性の中で捉えていけるようになることを目的とした支援が有効だと考える。